

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200908		
法人名	株式会社ユニマツそよ風		
事業所名	中野新田グループホームそよ風(やすらぎ・ゆとり合同)		
所在地	静岡県静岡市駿河区中野新田254-5		
自己評価作成日	平成23年11月28日	評価結果市町村受理日	平成24年1月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 aigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2294200908&SC

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡市葵区紺屋町5-8 マルシメビル6階		
訪問調査日	平成23年12月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「皆様にゆとりとやすらぎの提供を」この事業所の理念を実行するように、なるべく時間に縛られずにゆったりと過ごしていただいています。春からは毎日午前中に30分ほど全員でレクリエーション(歌、体操、ゲーム等)を行い、生活にリズムをつけるとともに楽しさも持てるようにしています。また毎月ボランティアさんによる企画や誕生日会などを行い、皆様に楽しんで頂けるようにと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

東名の静岡インターからほど近いが、道1本中に入っているため、閑静な住宅地の中に事業所はある。運営法人の合併で名称を変更し、今年3月新規に指定認可を得ているが、グループ内の合併のためこれまで通りの運営ができ安定している。本年から午前中にレクリエーションに取り組む時間を作っていて、始まる前から弾んだ声が聞こえ、利用者が楽しみにしていることが覗えた。ほかに、三味線や人形劇のボランティアの訪問が定期的にある。レクで1日の流れが変わり、生活にリズムがあることで利用者にもはつらつさができている。また、2ユニットが1ヶ所に集まることで、ユニット交流の機会にもなっている。管理者は今後の課題を定着率と接遇と考えていて、若年の職員がこの仕事を続けることができるよう、個々に声掛けするなどヒューマンリレーションが円滑になるよう配慮している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 中野新田グループホームそよ風(やすらぎ・ゆとり合同)	事業所理念を管理者と職員は共有し実践につなげるよう努力している。	法人変更と同時に基本憲章を定めている。コミュニケーションをとることで自然に「ゆとりやすらぎの提供」ができればと管理者は考えていて、職員に偏りなくどの利用者とも会話をもつよう指導している。	法人理念が大きいので、事業所やユニットの月間目標に落とし込むなど、職員にさらに浸透する工夫を期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	事業所は町内会に入っており、回覧板なども利用者様と一緒に持っていきようとしている。またホームの畑を向かいのO様が管理してくださっているなど地域の方のご協力があります。	運営推進会議の参加や事業所の畑の手伝いなど、近所の皆さんにはよくしてもらっている。周年祭には家族や近所へ案内をし、フランドンスや尺八などの催しと食事を楽しんでいる。また、隔月発行の「そよ風通信」は町内会で回覧してもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議時に地域の方に認知症についてのお話をさせていただくことはありますが、特に地域の方に向けてしていることはありません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者様について活動報告を行い、地域の方からの提案や話し合いの中でのご意見をサービス向上に生かすようにしている。	運営推進会議では様々な意見をもらっていて、近くの公民館で開催しているS型デイへの誘いもあった。災害時の対応については、会議を通じて町内会長をはじめ地域の皆さんから協力の声も挙がっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	サービスについてなどわからない点について市の担当者に電話で直接聞くなどしている。生活保護の方については市の担当者に密に連絡を取るよう関係を保っている。	運営推進会議には行政職員ではなく、包括職員が参加している。本年法人の再統合があり事業所名が変わったことでは、市の担当者に丁寧に指導してもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については職員は理解しています。また身体拘束廃止委員会を月1回開催しており、現在身体拘束をやむなくしている方について廃止に向けて取り組んでいます。	安全性第一という法人の考えで玄関を施錠している。ただし、帰宅願望をもつ利用者や外に出た様子があった場合は、職員が付き添って散歩の時間を作るよう工夫している。	施錠については当たり前のこととならないよう、職員間での振り返りの機会を作ることを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は事業所内で虐待が無いように注意を払っており、職員には積極的に外部研修に参加してもらい、虐待が起こらないようにつとめている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度を外部研修などで、学んでおり、個々の方については必要があれば、支援していきたいと思いを。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約、改定の際は、利用者や家族に十分な説明を行い、疑問や不安についてはそれにお答えして理解、納得を得られるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が面会に見えられたときには話す機会を設けてご意見や要望をお聞きするようにしています。また運営推進会議時にもお聞きするようにしています。	面会時には管理者から話掛け、要望を聴くようにしている。また、請求書と一緒にホームだよりを同封して、面会に来れない家族にも日頃の様子が届くようにしている。ホームから一言という欄には担当者が手書きで記入し、写真も個々に入れている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のホーム会議時において職員の意見を聴く機会を設けています。また職員に普段から声かけをして話をするようにしています。	個人面談を年に1回行っている。職員からはオープンで忌憚のない進言が多く、実際掃除機などを職員意見で購入している。また、発語の少ない職員には管理者から話掛けるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年数回の面談を実施して職員の状況把握を行い、このときに要望を聞き、働きやすい環境を作るよう努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は月1回の内部研修や外部研修にも積極的に参加するようにしている。研修については他の職員にも伝授してもらうようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は地区の会議などに積極的に参加しており、ネットワーク作りや意見交換をするなどしてサービスの質の向上に向けての取り組みをしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人との面接時の話し合いの中で、何をしたいのか、困っていることは何かを傾聴して、丁寧に答ええることにより安心して頂けるような関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前のご家族との面接時において、現在困っていること、不安に思っていることについてお聞きして信頼関係を築くように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族との面談で現在の生活状況をお聞きするなかで、今必要な支援を考え、必要であれば他のサービス利用についてもお話しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はご本人と一緒に家事をしたり、遊びをともにしたりして家族の一員のような関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月ご家族に送っているホーム便りで写真とともに様子をお伝えしています。また状態に変化があった時はその都度電話でお伝えしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご友人にはいつでも面会に来ていただくようお願いしています。またご家族との外出や外泊もいただいています。	墓参りや自宅への外泊など家族の協力で関係継続が叶っている。歌や踊りボランティアの定期訪問を楽しみにしている利用者も多い。また、近くの蕎麦屋は外食の定番となっていて、なじみとなりつつある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のレクリエーションなどで皆様一緒に活動することにより、お互いにコミュニケーションがとれるような支援をしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お元気になって退去され、ご自宅に戻られた利用者様が時々元気なお顔を見せにやってきました。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様とのお話のなかで、本人の希望や思いを汲み取るように努めています。	達筆な利用者に毛筆で書いてもらったり、裁縫の好きな人にはボタンつけを頼んだりして、以前得意だったことや趣味のことで取り戻すきっかけを職員からアプローチしている。地方新聞へ短文の投稿をした利用者もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様との会話の中から生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境等を把握するように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ずつの毎日の状態を観察して、その心身状態、有する能力等を把握して介助方法につなげています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の有している課題とケアのあり方について介護者と計画作成担当者、ご家族にもお聞きしてより良い介護計画を立てるよう日々検討している。	アセスメントはプラン毎に取り直し、現状に近い最新のものを備えている。担当制で行っていて、担当者ケアマネとで意見交換した後、あらかじめカンファレンスで他の職員意見も付加している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子は毎日記録に残しており、朝夕の申し送りでその情報を共有している。それにより介護計画を見直すなどしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人個人のニーズが違うので、その方々にあったサービスを行うように努力している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々との関わりをなるべく持つように、地域の行事にも参加するようにしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に受診される際には、現在の状況を手紙または口頭でお伝えしています。	協力医の往診が週1回ある。受診支援は家族にお願いしていて、緊急時のみ職員が付き添っている。薬事情報は個人ファイルに保管している。	スムーズな医療連携とともに、有事に備え通院記録の保管も期待する。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が週一回健康管理に来ており、その時に個々の利用者様について普段の情報や気づきを相談している。場合によってはご家族に受診をお願いするなどしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院した際には、病院関係者から情報を頂くようにしている。また退院時にはスムーズにもとの生活に戻れるように病院関係者と情報交換をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合の指針についてご説明しています。又その場合はご家族と話し合いを行い、ご本人ご家族の希望に添えるように援助していきたいと考えています。	看取りは難しいと考えているが、家族の要望には応えたいとも思うため、都度話し合いの機会をもつようにしている。現在、実績はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時にはマニュアルに沿って行うように指導している。しかし定期的な訓練は行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に備えての避難訓練は年2回行っている。地域の方々にもご協力をお願いしている。	夜間の火災想定に特に力を入れ、年2回取り組んでいる。備蓄は3日分程度ある。消火器や防災設備の点検も年2回入っている。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の人格を尊重して、丁寧な言葉かけをするよう指導している。またそのように対応できていると思います。	「オムツ交換の際のドアを必ず閉めるように」「パッドはむき出して持ち歩かないように」など、具体的に指導している。	トイレの誘導や私語についてもハウスルールをあらためて見直すことを期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活でご本人が思いを表せるように働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間の長い方には食べ終わるまでゆっくりと食事をしていただくなどしています。その方ペースにあった生活ができるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で着る洋服を選んでいただいています。季節的によほどおかしくない限りはその方の希望通りにしていただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は簡単なものはして頂いています。食事職員と利用者様は同じテーブルで同じ食事を頂いています。後片付けも出来るだけお願いしています。	食材は業者から仕入れているが、職員が手作りの家庭的な惣菜を提供している。利用者にも食事の支度から片づけまでできる範囲で取り組んでもらえるよう支援している。また、食事中は間に職員が入り、会話をもちながら楽しい時間を過ごしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は毎日記録をしており、一人ひとりの状態を把握して支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後行っています。一人ひとりの状態に応じて支援を行っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつけており、それにより随時トイレ誘導を行うなど失敗の無いように支援している。またなるべくオムツを使わないようにトイレ誘導をこまめにしている。	なるべくトイレで行ってもらうよう努めていて、日中オムツという人は1名のみである。また、便秘解消に手作りヨーグルトを毎朝食べることを続けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便を促すように毎朝ヨーグルトを出しています。また食事も野菜を多く取り入れるようにしています。歩行やゆうゆうサイクルで運動をしていただくようにしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前に声かけをして入浴のお誘いをしています。気分が乗らないときは無理強いをせずに少し時間を置いて、または翌日に入ってくださいようにしています。	入浴は苦手という利用者が多い。最低週2回の入浴をめやすにしている、声掛けを工夫することで清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は大体20時から21時ですが、その方の状況に合わせて就寝していただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報は各人の記録ファイルに綴じてあり、いつでもみることが出来る。また薬も確実に服薬できるように利用者ごとに曜日、時間で仕分けしており、飲み忘れの無いようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活に張りを持っていただく為に毎日レクリエーションを行っており、また外出やボランティアさんにも来て頂いて楽しみが持てるようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	週に1、2回ほどドライブや散歩など、また春秋の遠足で普段行けないところに行けるように支援している。	春と秋は遠足に行くことに決めていて、今年は日本平動物園に出掛けている。また、ぶどう狩りは毎年の恒例行事になっていて、利用者も楽しみにしている。体調や天候などで散歩に行けない日は、玄関先のベンチで外気浴だけでもするようにしている。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族からお金を預かっており、本人が欲しいものがあったり、必要品が出た場合には、ご家族の許可を得て買い物に付き添ったり、代わって買い物に行ったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	よほどの急用が無い限りは事務所の電話を使うことは出来ませんが、手紙は書くことが出来る方には書いていただいています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングやトイレなど共有の場所は常に清潔にして、利用者様が過ごしやすいように配慮しており、季節を感じられるように飾り付けも工夫している。	季節を感じるができる小物や加湿器が置かれ、日頃から居心地のよい場所づくりに配慮していることが覗える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファや椅子が配置してあり、ご自分の好きな場所で過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の居室には使い慣れたものを持ってきて頂き、少しでも居心地良く過ごせるようにしていただいている。	短歌の好きな利用者の部屋には自らの作品が掲げられていて、それぞれに「自分の部屋」として暮らしていることが視認できた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は利用者様に危険の無いようにバリアフリーにしてあり、利用者様安全に過ごせるように配慮してある。また利用者様が自立した生活が送れるよう工夫をしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 中野新田グループホームそよ風(やすらぎ・ゆとり合同)	事業所理念を管理者と職員は共有し実践につなげるよう努力している。	法人変更と同時に基本憲章を定めている。コミュニケーションをとることで自然に「ゆとりやすらぎの提供」ができればと管理者は考えていて、職員に偏りなくどの利用者とも会話をもつよう指導している。	法人理念が大きいので、事業所やユニットの月間目標に落とし込むなど、職員にさらに浸透する工夫を期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	事業所は町内会に入っており、回覧板なども利用者様と一緒に持っていきようとしている。またホームの畑を向かいのO様が管理してくださっているなど地域の方のご協力があります。	運営推進会議の参加や事業所の畑の手伝いなど、近所の皆さんにはよくしてもらっている。周年祭には家族や近所へ案内をし、フランドンスや尺八などの催しと食事を楽しんでいる。また、隔月発行の「そよ風通信」は町内会で回覧してもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議時に地域の方に認知症についてのお話をさせていただくことはありますが、特に地域の方に向けてしていることはありません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者様について活動報告を行い、地域の方からの提案や話し合いの中でのご意見をサービス向上に生かすようしている。	運営推進会議では様々な意見をもらっていて、近くの公民館で開催しているS型デイへの誘いもあった。災害時の対応については、会議を通じて町内会長をはじめ地域の皆さんから協力の声も挙がっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	サービスについてなどわからない点について市の担当者に電話で直接聞くなどしている。生活保護の方については市の担当者に密に連絡を取るよう関係を保っている。	運営推進会議には行政職員ではなく、包括職員が参加している。本年法人の再統合があり事業所名が変わったことでは、市の担当者に丁寧に指導してもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については職員は理解しています。また身体拘束廃止委員会を月1回開催しており、現在身体拘束をやむなくしている方について廃止に向けて取り組んでいます。	安全性第一という法人の考えで玄関を施錠している。ただし、帰宅願望をもつ利用者や外に出た様子があった場合は、職員が付き添って散歩の時間を作るよう工夫している。	施錠については当たり前のこととならないよう、職員間での振り返りの機会を作ることを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は事業所内で虐待が無いように注意を払っており、職員には積極的に外部研修に参加してもらい、虐待が起こらないようにつとめている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度を外部研修などで、学んでおり、個々の方については必要があれば、支援していきたいと思えます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約、改定の際は、利用者や家族に十分な説明を行い、疑問や不安についてはそれにお答えして理解、納得を得られるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が面会に見えられたときには話す機会を設けてご意見や要望をお聞きするようにしています。また運営推進会議時にもお聞きするようにしています。	面会時には管理者から話掛け、要望を聴くようにしている。また、請求書と一緒にホームだよりを同封して、面会に来れない家族にも日頃の様子が届くようにしている。ホームから一言という欄には担当者が手書きで記入し、写真も個々に入れている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のホーム会議時において職員の意見を聴く機会を設けています。また職員に普段から声かけをして話をするようにしています。	個人面談を年に1回行っている。職員からはオープンで忌憚のない進言が多く、実際掃除機などを職員意見で購入している。また、発語の少ない職員には管理者から話掛けるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年数回の面談を実施して職員の状況把握を行い、このときに要望を聞き、働きやすい環境を作るよう努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は月1回の内部研修や外部研修にも積極的に参加するようにしている。研修については他の職員にも伝授してもらうようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は地区の会議などに積極的に参加しており、ネットワーク作りや意見交換をするなどしてサービスの質の向上に向けての取り組みをしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人との面接時の話し合いの中で、何をしたいのか、困っていることは何かを傾聴して、丁寧に答えをすることにより安心して頂けるような関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前のご家族との面接時において、現在困っていること、不安に思っていることについてお聞きして信頼関係を築くように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族との面談で現在の生活状況をお聞きするなかで、今必要な支援を考え、必要であれば他のサービス利用についてもお話しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はご本人と一緒に家事をしたり、遊びをともにしたりして家族の一員のような関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月ご家族に送っているホーム便りで写真とともに様子をお伝えしています。また状態に変化があった時はその都度電話でお伝えしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご友人にはいつでも面会に来ていただくようお願いしています。またご家族との外出や外泊もいただいています。	墓参りや自宅への外泊など家族の協力で関係継続が叶っている。歌や踊りボランティアの定期訪問を楽しみにしている利用者も多い。また、近くの蕎麦屋は外食の定番となっていて、なじみとなりつつある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のレクリエーションなどで皆様一緒に活動することにより、お互いにコミュニケーションがとれるような支援をしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お元気になって退去され、ご自宅に戻られた利用者様が時々元気なお顔を見せにやってきました。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様とのお話のなかで、本人の希望や思いを汲み取るように努めています。	達筆な利用者に毛筆で書いてもらったり、裁縫の好きな人にはボタンつけを頼んだりして、以前得意だったことや趣味のことで取り戻すきっかけを職員からアプローチしている。地方新聞へ短文の投稿をした利用者もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様との会話の中から生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境等を把握するように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ずつの毎日の状態を観察して、その心身状態、有する能力等を把握して介助方法につなげています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の有している課題とケアのあり方について介護者と計画作成担当者、ご家族にもお聞きしてより良い介護計画を立てるよう日々検討している。	アセスメントはプラン毎に取り直し、現状に近い最新のものを備えている。担当制で行っていて、担当者ケアマネとで意見交換した後、あらかじめカンファレンスで他の職員意見も付加している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子は毎日記録に残しており、朝夕の申し送りでその情報を共有している。それにより介護計画を見直すなどしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人個人のニーズが違うので、その方々にあったサービスを行うように努力している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々との関わりをなるべく持つように、地域の行事にも参加するようにしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に受診される際には、現在の状況を手紙または口頭でお伝えしています。	協力医の往診が週1回ある。受診支援は家族にお願いしていて、緊急時のみ職員が付き添っている。薬事情報は個人ファイルに保管している。	スムーズな医療連携とともに、有事に備え通院記録の保管も期待する。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が週一回健康管理に来ており、その時に個々の利用者様について普段の情報や気づきを相談している。場合によってはご家族に受診をお願いするなどしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院した際には、病院関係者から情報を頂くようにしている。また退院時にはスムーズにもとの生活に戻れるように病院関係者と情報交換をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合の指針についてご説明しています。又その場合はご家族と話し合いを行い、ご本人ご家族の希望に添えるように援助していきたいと考えています。	看取りは難しいと考えているが、家族の要望には応えたいとも思うため、都度話し合いの機会をもつようにしている。現在、実績はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時にはマニュアルに沿って行うように指導している。しかし定期的な訓練は行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に備えての避難訓練は年2回行っている。地域の方々にもご協力をお願いしている。	夜間の火災想定に特に力を入れ、年2回取り組んでいる。備蓄は3日分程度ある。消火器や防災設備の点検も年2回入っている。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の人格を尊重して、丁寧な言葉かけをするよう指導している。またそのように対応できていると思います。	「オムツ交換の際のドアを必ず閉めるように」「パッドはむき出して持ち歩かないように」など、具体的に指導している。	トイレの誘導や私語についてもハウスルールをあらためて見直すことを期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活でご本人が思いを表せるように働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間の長い方には食べ終わるまでゆっくりと食事をしていただくなどしています。その方ペースにあった生活ができるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で着る洋服を選んでいただいています。季節的によほどおかしくない限りはその方の希望通りにしていただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は簡単なものはして頂いています。食事職員と利用者様は同じテーブルで同じ食事を頂いています。後片付けも出来るだけお願いしています。	食材は業者から仕入れているが、職員が手作りの家庭的な惣菜を提供している。利用者にも食事の支度から片づけまでできる範囲で取り組んでもらえるよう支援している。また、食事中は間に職員が入り、会話をもちながら楽しい時間を過ごしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は毎日記録をしており、一人ひとりの状態を把握して支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後行っています。一人ひとりの状態に応じて支援を行っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつけており、それにより随時トイレ誘導を行うなど失敗の無いように支援している。またなるべくオムツを使わないようにトイレ誘導をこまめにしている。	なるべくトイレで行ってもらうよう努めていて、日中オムツという人は1名のみである。また、便秘解消に手作りヨーグルトを毎朝食べることを続けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便を促すように毎朝ヨーグルトを出しています。また食事も野菜を多く取り入れるようにしています。歩行やゆうゆうサイクルで運動をしていただくようにしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前に声かけをして入浴のお誘いをしています。気分が乗らないときは無理強いをせずに少し時間を置いて、または翌日に入ってくださいようにしています。	入浴は苦手という利用者が多い。最低週2回の入浴をめやすにしている、声掛けを工夫することで清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は大体20時から21時ですが、その方の状況に合わせて就寝していただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報は各人の記録ファイルに綴じてあり、いつでもみることが出来る。また薬も確実に服薬できるように利用者ごとに曜日、時間で仕分けしており、飲み忘れの無いようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活に張りを持っていただく為に毎日レクリエーションを行っており、また外出やボランティアさんにも来て頂いて楽しみが持てるようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	週に1、2回ほどドライブや散歩など、また春秋の遠足で普段行けないところに行けるように支援している。	春と秋は遠足に行くことに決めていて、今年は日本平動物園に出掛けている。また、ぶどう狩りは毎年の恒例行事になっていて、利用者も楽しみにしている。体調や天候などで散歩に行けない日は、玄関先のベンチで外気浴だけでもするようにしている。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族からお金を預かっており、本人が欲しいものがあったり、必要品が出た場合には、ご家族の許可を得て買い物に付き添ったり、代わって買い物に行ったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	よほどの急用が無い限りは事務所の電話を使うことは出来ませんが、手紙は書くことが出来る方には書いていただいています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングやトイレなど共有の場所は常に清潔にして、利用者様が過ごしやすいように配慮しており、季節を感じられるように飾り付けも工夫している。	季節を感じる事ができる小物や加湿器が置かれ、日頃から居心地のよい場所づくりに配慮していることが覗える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファや椅子が配置してあり、ご自分の好きな場所で過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の居室には使い慣れたものを持ってきて頂き、少しでも居心地良く過ごせるようにしていただいている。	短歌の好きな利用者の部屋には自らの作品が掲げられていて、それぞれに「自分の部屋」として暮らしていることが視認できた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は利用者様に危険の無いようにバリアフリーにしてあり、利用者様安全に過ごせるように配慮してある。また利用者様が自立した生活が送れるよう工夫をしています。		